

新宮山彦ぐるーぷ第2193回

国道425号から怒田宿水場迄のルートを調査など

◇実施日 7月24日(日) 晴

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄 2名

7月17日に14名で怒田宿の水場確認を行ったが、行仙宿からのピストンで国道迄のルートは確認していなかった。24日は計画された行事が無かったので、白谷トンネル西口から怒田宿の水場迄を歩いてみようと思い、沖崎さんにその旨を伝えると「俺も行く」の返答があり、2人で向かうことになった。



古い標識発見



登り始める



大岩を捲く

午前9時半にトンネル西口で待ち合わせ。国道北側を調べると、2年前に榎本さんが作ったプラスチックの標識を見つけた。

その先からトンネルの方に登るような踏み跡があり、GPSで確認すると方向はほぼ合っている。しばらく登ると大きな岩が前方に見えた。岩の右手に登ったような跡もあったが、岩裾を捲いて左側の沢沿いに登る。先行した沖崎さんが木に巻かれた古いテープを発見、昔もこのルートをたどっていた事が判った。



古いテープ発見

こだけ水が流れていた

怒田宿水場に到着

その後もテープやロープがあり、間違いなく水場方向に向かっていることを確信した。

水場迄150m位の所で右に小さな沢が一本出てきた。左の沢はその上で少し右にカーブしている。GPSで確かめると、現在地より右上に水場があるので、左の沢を登る。

もうそろそろ着くはず、と思っていたら沖崎さんが水場の標識と先日付けたピンクのテープを見つけて水場に到着した。

このルートはほぼ沢沿いに登っており、途中の岩には苔が付いて水が多いことが判る。しかし水流は見えず、地表に水があったのは途

中の一ヶ所のみだった。水場上に登り沢の様子を観察したが、水場の上にも水流は見え、水場に流れ出している水は、地中から沁み出していると思われる。



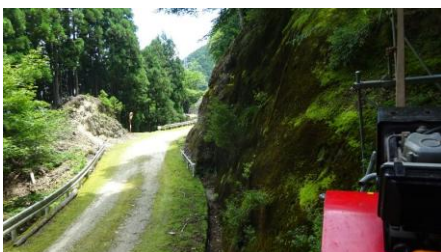
よく流れている

テープを付けながら下る

水場迄、登りは確認しながら、ゆっくり登ったので50分かかったが、下りはテープを付けながらで30分だった。

今日歩いてみて、白谷トンネル西口から奥駈道までは、ゆっくりでも50分位、速い人なら40分で行くだろうと思った。特別危険な場所は無く、エスケープルートとしては十分機能するだろう。ただ国道に降りた後、交通機関が無いのが難点だ。

白谷トンネル西口から行仙宿に向かう。ザックや碎石1袋をモノレールに積んで終点に登る。碎石を補給路の補修個所に撒き、第2ベンチの板に木材保護材を塗る。去年の5月に新設し、その後何度か塗装しようとしたが雨で濡れていたり、他の荷物が多かったりで延び延びになって、ようやく完了した。



モノレールで上がる

第2ベンチを塗装

碎石を撒く

12時半を過ぎて行仙宿に到着。笠捨山から日帰りの登山者がテープで休んでいた。

昼食後、ハシゴを伸ばして屋根に上がり煙突の状態を確認する。煙突の隙間を塞いだ耐火パテは、ほとんどが無くなっていった。どうやら耐火性がないようで、雨に打たれて流れてしまったようだ。ストーブを覗いてみると、若干湿り気はあるが水は溜まっていないかった。耐火・耐熱のシーリング材を探して、次回に処置したい。

水場入り口の鳥居風門に扁額を付けるためコードを伸ばし電気ドリルを用意して発電機を動かすが、スターターを引いてもエンジンが始動しない。10回ほど引いたが諦め、釘で打ち付けた。

丸太を板にするため、チェーンソーで10cm位の切り込みを入れて楔で割ってみたが、きれいには割れなかった。

不調のチェーンソー一台と古い煙突を持ち下山する。モノレール終点に荷物を置き、間伐材集めに下る。直径10cmほど

の物を2m位に切って10数本を集めた。



煙突にまた隙間が

丸太を割る

門に扁額を付ける

登山口に降りて、丸太を板に切ってみる。板挽用のアタツチメントを買ったので試し挽きを試してみた。チェーンソーの切れ味が悪く、時間がかかったが、直線に切れるのが判った。

(記：梶野)

行動タイム

09：30 白谷トンネル西口→10：39 怒田宿の水場 10：54→11：25 白谷トンネル西口→11：52 補給路登山口→12：42 行仙宿 14：40→15：05 補給路登山口